

議長（高木将君） 次，25番生田目久夫君の発言を許します。

〔25番 生田目久夫君登壇〕

25番（生田目久夫君） 25番生田目でございます。ただいま議長のほうからお許しございましたので，事前通告に従いまして，常陸太田駅周辺地区まちづくりについてご質問を申し上げます。

どうも6月の議会にも，前議長は声が大き過ぎるというようなことでご忠告を受けましたので，今回は静かに，原稿を見ながらご質問申し上げたいと思います。

この問題につきましては，去る6月議会にも申し上げてありますが，改めて申し上げたいと思います。執行部と議会は並立対等だと言われておりますが，地方自治は，執行機関である首長と議決機関である議会が，双方それぞれの使命を果たすことによって，健全なる行政が遂行されることができるものと確信をいたしております。地方公共団体の首長は，議院内閣制の中央政治と違ひまして，市長も議員も住民の直接選挙によって選出されているのでありまして，大統領での地方行政とはいえ，そこには，抑制と均衡のとれた政治が行われて初めて円滑な地方政治が発揮されるものと，確信をいたしております。

そこで申し上げますが，大久保市長は，行政と市民が一緒になってまちを考え，行動し，つくっていくんだと述べられておりますが，今回の駅周辺地区まちづくり計画は，市民のだれと相談をして計画をしたのかについてお伺いをいたしたいと思います。提案権と執行権はおれの権限だという強い自負心が作用し，平成12年から継続してきた事業計画を変更した今回の事業計画で，はっきりと見受けられるというようなことでございますが，いかがかお伺いをしたい。

常陸太田市駅周辺整備計画は平成12年度に策定し，駅を含む5.6ヘクタールの区域で土地区画整理事業を計画していたが，平成17年3月に日立電鉄が廃止廃線となったのを受けて，市は，新たな基本方針を定めて計画の見直しを進め，平成18年1月に，地元地権者，商店会，関係行政機関，鉄道会社などからなる整備計画検討会の決議で土地利用検討案を選定し，この計画を具現化，具体化するために，関係機関とも協議を進めてきたと述べられておりますが，今回の計画の見直しは，市長の裁量で，大地権者の，すなわち日立電鉄を初め，特定一部地権者のみと内密に打ち合わせをして進めてきたように見受けられますが，どうかお伺いをいたします。

そこで，さきにも述べたように，平成12年度から計画した事業を，説明会だと言って，先ほど立原議員からも出ましたが，5月17日，18日の両日，地元山下町集会所で開かれまして，80余名の出席者がありました。突然降ってわいたような説明に，怒声，罵声が出てまいりまして，話も聞き取れないような終始混乱の中で，役員の辞任問題までも発展をしました。両日とも，そのような中で流れ解散となった。その2日目の議会の全員協議会の席上では，「常陸太田駅周辺地区の施設計画について」という経過で報告が示されましたが，その末尾には，建設部長名において，「おおむねまとまったので報告する」ということが記されたものが，我々，全協でもって配付されたわけでありまして。17，18日の

地元山下町の説明会においたときに、5名の議員の方が出席されましたが、その方々から、何だそれはと、それはまるっきりうそじゃないかというような指摘があったわけでありませぬ。

そういうことで、開発対象地区とされておりました山下町地権者、あるいは商店主、住民は大変な期待を持って、まちづくりというものに関心を持って、つねがねから、そうした実行される場合の経費をなるべくかけないようにしてあげたいというような形で、今日まで至ったのが現実であります。そういうわけで、開発対象地区の方々も、あまりのうそとごまかしたと、平然としており、ただただ啞然とするばかりであると、こういうことも申されておったわけであります。

6月14日の午後7時には、山下町集会所で市長の出席のもと、第3回目の説明会を実施いたしました。もちろん市長が出席するということでありますので、地権者や商店主関係者のほとんどの方が期待をして、その会場に出席をいたしましたわけですが、やはり何としても思うようにまとまらないわけで、市長の意向で、最後に賛否をとったらどうかということで、たくさんの方々から同意を得まして、賛否をとったわけですが、賛成の方というものは、最後まで促したんですが、たった1人、1名だけでありまして、あとはみんな反対だと。結局それは、反対じゃなくて、見直したという、見直しの反対であるということなのでありますが、そういう結果になりました。残念なことに、市長も、何か思うようにならない、こんなことでは話にならないと言って、再三出席者の中からとめられたんですが、どんどんと部課長を連れて帰って行ってしまったというようなのが現状であります。どうも、あくまでこの事業を何とか推進しようという市長の意が、かなりその当時感じたわけであります。

次に、計画発表以来、事態の厳しい状況もお察しになったんでしょうが、この打開策のために、整備計画の、今まで発表された以外に計画されました。先ほども副市長が出てまいりまして申されましたが、各旧市町村まで手を伸ばしまして、各市町村の方々のご理解を得ようという趣旨のもとにおやりになったわけであります。私どもも、その会に全回出席をしましてまいりました。太田は大体70名ぐらいたったんですが、ほとんどの町会長さんも出てまいりましたが、いろいろ話の中で、いや、どうもあんまり結構じゃないなと、もったいないなというようなことが話になりまして、2人、3人という方が時間内にどんどん退会をして行ってしまったと。結果は、結局そうした話にも至らずに、説明会のみで終わってしまったというのが現状であります。

次に……、それはちょうど8月1日でありましたが、8月8日に、金砂郷のふじでもって午後7時からということで開催をされました。私どもも出席をしましたが、何と残念なことに、地元の出席者は5名であります。そのようでありますから、執行部のほうでは、先ほどのお話のとおり一生懸命説明はなされましたが、どうにもならず、これも流れ解散であります。そのときに、参加者からいろいろ質問がありましたが、何だか最後のころになりまして、副市長も大変ご立腹なされまして、こんな話ならもうやめて帰るというよう

なことも申されたわけでありまして。その当時、私も行っていまして、制止はしたんですが、背中をはたいたなんていうような聴講者もあったわけでありまして、何らおさまったわけでありまして。

次の日の8月9日に、水府地区の総合センターでもって実施されましたが、やはりこれも5名の現地の方だけで終わってしまいまして、やはり金砂郷と同じような現状でありました。

続いて次の翌日、里美の文化センターで午後7時から行われたわけなんですけど、これもまことにお粗末です。これは、市の職員の方、里美のほうからこちらへ通勤なさっている方だと思っておりますが、その方が3名、もう1人で、合計4名だと思っておりますが、その状態で、ついに流れ解散というようなことになったわけでありまして。

以上のような出席状況の中で、こんなむだな経費を使って、何でこんなことを急遽やらなきゃならないんだろうと。あるいは、この暑いのに職員の方も気の毒だけでも、よその職員の方は、この暑さの中で、家族とお風呂に入って涼んでいるんじゃないかなと、そういう時期に引っ張り出されてやっている職員も気の毒だ。しかしその反面、時間外手当も支給しなきゃならんと。そういう手当の支給のための開催ではないのかなというような話もあったわけでありまして。このような状況の中で、これで果たして市民の協働の行政と言えるのかと、市民の理解を得られるのか、説明責任はそれで十分に果たされたのかという声であります。市長のお考えをお伺いしたいと思っております。

なお、説明会場では、道路計画を提示しながら、設計者名の発表をすることを頑として拒んでまいりました。これは、太田の5月17、18日はもちろん、そして、太田市のセンターでもそうですし、金砂郷、水府でも、みなそれを申し上げられましたが、全然拒んできました。一体どういうことなんだと、測量設計はおそらく市の職員のおやりになることじゃないんじゃないかというようなことが大変問題になりまして、この設計は市の職員じゃないだろうというようなことで詰め寄せられて、そのとき初めて、これは業者に委託したんだという答弁があったわけでありまして。当然、外部に委託した場合には、その委託料だって払わなきゃなりません。なぜこの図面に業者名も入れず、無回答にてひた隠しにしておったのか。とにかく行政というのは昔から隠したがるといようなことが言われておりますが、まさに理不尽じゃないかなと、住民をばかにしている手法だと。それでいて、結局この事業にはぜひともご理解とご協力をいただきたいと。その話になって、この前のような夜間まで招集をかけて、働きかけておると。そういう市民を冒瀆しているんだというようなことが盛んに言われたわけでありまして。ここについても、市長のご意見をお伺いしたいと思っております。

市職員は、地方公務員法の第34条の条項によりまして、市長を擁護するためあのような言動をとっているのかということになると、私どもも大変割り切れない感じがするわけでありまして。そこで申し上げますが、あれほどコンサルタント名の発表を拒んだものが、今度は一部のの人に発表しております。それは、いかなる都合でそんな発表をしたのかとい

うことをお伺いしたいのであります。こういう書類が出てきております。

それから、常陸太田市駅周辺整備計画委託契約を平成12年度から日本技術開発という会社に、平成18年度までの6カ年間にわたって総額4,386万1,000円、そのうち平成12年度から平成17年までに2,488万5,000円を支払っておりますが、一体これほどの大金を、ただ単に捨て金のように処理していたのか、この辺を執行責任者としていかにお考えになっているのかお伺いをしたいと思います。

また、なぜこれほどの予算を投じてやってきたものを、大久保市長は、先ほど前議員からもありましたが、疑わざるを……、結局耳ざわりをするようなことを申されながら、急遽方向転換をしたのは、何としても私どもは疑わざるを得ないのであります。政治は継続が原則と、なぜこれほど多額の予算を流してまで事業を推進させなければならないかということが、私どもの胸を突くわけであります。日立電鉄線が平成17年3月に廃線になってからというが、計画を変更したのならば、平成17年度の委託料735万は、不用額として処理すべきものはず。何ゆえにこのような予算執行をしたのか、お伺いをしたいと思います。

それから、本席において、平成12年、13年、14年、平成16年、17年と、各年度ごとの日本技術開発株式会社に対して発注をした実績報告書並びに設計書をぜひ提出していただきたいと思っております。

さらに、平成18年度常陸太田市駅周辺整備委託契約は、日本技術開発株式会社に1,080万円、JR東日本コンサルタントに889万6,000円とありますが、平成18年度のこの間の一般会計決算の結果を見ますと、駅周辺地区整備計画推進業務委託料が何と1,994万4,750円、それと、地図作成委託料として299万2,500円、それから都市計画基礎調査委託料というものですが、これで1,109万8,000円。トータルでは3,403万5,750円、単年度で予算が支出されているわけであります。駅周辺地区整備計画推進業務委託料1,994万4,750円とあるが、この推進業務委託を一体どのだれに委託してやってきたのか伺いたいです。また、同じ事業に、先ほど申し上げましたが、地図作成委託料299万2,500円、都市計画基礎調査委託料1,109万8,500円が支出されていますが、これもまたどのだれに委託して基礎調査をさせたのか伺いたいです。

さきにも述べたように、提案と執行はおれの権限だと思っておられるかもしれませんが、平成12年度以降、一貫して日本技術開発株式会社に駅周辺整備計画を委託しておりますが、これほどの大事業を特定業者に委託するということは、先ほども出てまいりました随意契約で執行しているということは、住民の信託を受けた市長として、一握りの人による住民不在の不可解な行為でありまして、予算の背景を考えると、血税を納付する住民はただ被害者扱いにされているというような話になっておるわけでありますが、いかなものか。地方財政法第3条、第4条をいかに理解してこのようなことをしているのか、いずれにいたしましても、平成12年度から5年間に駅周辺整備計画に支出した2,488万円をむだ遣いした責任は、極めて重いわけであります。要は、市長の責任において市に返還

をすべきと、こういうふうに思いますが、いかがなものでしょうか。

いろいろと申し上げてまいりましたが、これから答弁をいただいた後、再度ご質問を申し上げます。以上で第1回目の質問は終わります。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 生田目議員の太田駅周辺地区まちづくりの計画について、今までの経緯を含めてのお話がありました。しかし、私といたしましては、あまり仮定の話とか、誹謗中傷を入れたような中での質問をされるというのはいかがなものかというふうに思います。

その例を申し上げますと、例えば降ってわいたような計画だということに対しましては、議員みずからも発言をされておりましたように、平成12年から、駅前についての整備計画ということは持ち上がっておりました。その時点から、70億円の予算規模として、地域の区画整理事業ということで話が進んできたわけでありますが、これは地権者の合意も得られない。そして、あわせて最近、17年になりましては、日立電鉄の廃線ということが絡んできたわけであります。したがって、これらのことについては、地権者の皆様、あるいは地元に対しても、何回かの説明をしながら、その中で最近に至ります計画の前に6案をお示しいたしまして、その中から地域の皆様のご選択、ご意見をいただいて、1案に絞り込みをして、今日に至っているという経緯がございます。

そしてまた、先ほどは、市民のだれと相談をしたんだと、日立電鉄と協議をしてやっているんじゃないかと、こんな話がありましたけれども、「市民のだれと」という点に関しましては、山下町内を中心とする地権者の皆様、あるいは町会の皆様とも相談をいたしまして、駅周辺にかかわる協議会を立ち上げた中で、これを進めてきているわけであります。もちろん、日立電鉄、あるいは地権者、日立電鉄も地権者としてその協議会の一員に加わっていることはご案内のとおりでございます。そんな中でこの計画を進めてきたわけであります。

そして、この計画を進めるに当たっての基本的な考え方として、国道2本が変則交差をしている交通事故等の解消ということが第1点であります。それに伴いまして駅前の整備、そして、今まで線路で、現在もそうですが、東と西が分断されている、それをもっと使いやすくする。あわせて、駅前を含んだ中心市街地の活性化、あるいは当常陸太田市としての玄関口である駅前整備ということは必要であると、こういう観点から、手順を追ってこのことを進めてきたところでございます。そういう中で、先ほど議員からうそとごまかしだと、こんなお話がありました。私は全然そういうふうには考えておりません。うそもごまかしもしておりません。

この駅前整備に関しましては、今まで国及び県に対しまして、交通事故対策としてどうしても進める必要があるということでお話を申し上げてまいりました。そして、予算措置についてもおおむねはついたという状況下でございます。

一方、これは常陸太田市だけがその要望の原点に立っているわけではございません。要望も踏まえて、国土交通省が最近発表いたしました最優先をして改良すべき交差点の書類の中に、常陸太田駅前が挙げられております。その背景は、車が1億台1キロ走る常陸太田駅前交差点を中心にして、そこでの死傷事故の発生率が715.2件発生をいたしております。これは、交通戦争と言われた昭和40年代の同じ単位での数値300件を2倍以上超える死傷事故の発生交差点として、国交省としては、優先的に投資をして改良する交差点ということで掲げられているところであります。

そして、議員もご案内のとおり、今、道路整備にかかわる財源につきましては、大変厳しい状況下にあります。道路特定財源については、国の財政のやりくりの中で、一般財源化を図ろうということになっております。したがって、間もなくであります、それぞれの地域の道路の中期計画を策定して、そこに載らないものについては、これから実行はなかなか難しくなるという状況にあります。また、沢畠議員のご質問にもお答えをいたしましたが、当市の持ち出さなきゃいけないお金については5億7,000万であります、合併特例債について、その30%は当市負担となりますが、それについての支援策も県のほうで決定をされたところであります、費用としては3億7,000万の当市の持ち出しということに、最終的にはなろうかと思えます。

平成12年当時の日立電鉄線とJR線を同じ駅舎に入れた整備から、電鉄線がなくなったことを踏まえまして、平成17年に担当部署に私が市長になりましてから指示をいたしまして、費用をできるだけ少なくする中で、交通事故の防止と、それから駅前の整備について検討を指示したところであります。

先ほど来、平成12年からコンサルタント料としてたくさんの費用を使ってきたのはいかがなものかというようなお話がございましたが、私が本件にタッチをし、そして進めなきゃいかんと、今もそう思っておりますが、こういうふうに決めましたのは、平成17年の市長就任時からでございます。

さまざまな地域で説明会等を行ってまいりました。これに関しましては、先ほど申し上げましたように、常陸太田駅前は、当市にとって、その周辺の町内だけの問題ではございません。当市全体を考えましたときに、皆様に広く知っていただきたい、理解をしていただきたい、そう思うのは当然のことです。ただ、やり方として、参加人員が少なかった、そしてまた、そこにご出席をされた生田目議員を初め、本件に関して反対の意見を唱える方の声が非常に大きかったのも事実であります。そういう中で、賛成者とのいさかきも、先ほど議員ご発言のとおり発生をしているところであります。多く申し上げる必要はないかと思えます。

これからの市の都市計画審議会、そしてまた、その後にかかれまます県における都市計画審議会、そこでのご承認をいただけました後には、これらに関します予算を平成20年度、計上いたしまして、議員の皆様のご審議をいただいて、承認をいただけましたら進めてまいりたいというふうに思っているところでございます。

以上です。

議長（高木将君） 建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） コンサルタントの委託についてお答え申し上げます。

コンサルへの委託を行いましたのは、住民の皆様と意見交換を行うために必要となる図面やデータなど、資料の作成を依頼するためのものでございます。住民の皆様からの意見を具体化した作業を行っていただいたものでございまして、これまでの取り組みの積み重ねが、今回の計画案に反映されたものでございますゆえに、ご理解を賜りたいと思います。

ちなみに、17年度のコンサルの委託についてでございますけれども、これにつきましては、日立電鉄の廃止を受けまして、今後の方針を図面化するために、土地利用計画図を作成したものでございます。

また、18年度の地図作成及び基礎調査費につきましては、金砂郷地区で計画しております現況調査、あるいは都市計画、先ほどの線引きの見直しの基礎調査に充当したものでございまして、駅周辺の基礎調査費ではございませんので、ご理解を賜りたいと思います。

議長（高木将君） 25番生田目久夫君。

〔25番 生田目久夫君登壇〕

25番（生田目久夫君） いろいろご答弁ありがとうございました。第2回目の質問をいたします。

いろいろ市長のほうからありまして、以前から、12年からやっているんだということで、住民に十分理解を得ながら、今日まで来たんだということではありますが、6月議会にも私は申し上げましたが、17、18日の2日間の本当の地元地権者、商店主への会合であります、そのときにこういう問題が起きました。先ほども役員の辞任問題もあったということを申し上げましたが、そのときに、役員の選出方法で、なぜ降ってわいたようなことがということが皆様から出ましたことは、その役員の選出が非常に不明瞭であったということなんですね。隣にいてもどの人が役員をやったんだかわからないんだというのが現状でありました。

その席上でも、皆さん、部長から都市計の課長、8名の方がおりましたから、よくわかっていると思いますが、ある方から、うちの隣のやつはあんたでないかと、あんた一体何やっているんだと、何の報告もしないで、だからこんな問題が出るんだということになったんですが、そうしましたら、結局その人が立ち上がりまして、実は私は商売もしているし、いろいろ大変であったんですが、ある先輩のほうから指名をされたので、だれも忙しくてやっぱり出られないのかなということで、私もそれじゃしようがないと思って、ボランティアだと思って出ていったんだと。ところが、どうも聞いていると、私どもの地区のほうさっぱり不利益で、何としても納得がいかない。で、私、ぱっと質問をした。質問したのが何か気に入らないんだか知らないが、てめえは黙っていると、おめえがそういう口をきくんじゃないんだと言って、頭ごなしに、招集をかけられたその方にどなりつけ

られたと。これは公表ですよ、皆さんの前でよくそうおっしゃった。

ところが、そっちでもこっちでも騒ぎができて、おれのほうでもそうだよと。そういうことから、一部の方でそういうことが実施されたんだということなんです。最後に副会長になった方ですが、名前もよく存じておると思いますが、「いいわ」と手を挙げまして、「これは私は責任あるんだ。悪かった。私がやめればいいんでしょう。あした行って、町会長に辞表を出してくるからいいよ」というようなことで、さんざんもめた末に、その問題はおさまったんですよ。

こういう状況の中ですから、市執行部のほうでは、大変皆さんの意向が通じておやりになったというふうにお考えになっているかもしれませんが、地元地権者ではそうは行かないですよ。ほとんどの方が、どこで何をやって決めたと。これは、ことしの4月の末になりまして、それまでは、私は6月の議会でも申し上げましたが、前渡辺市長と一生懸命検討を加えまして、どうも駅前も人口増にはならないと。当然、この広いところで、車いすで歩く方なんかは、本当に信号が変わるまでのうちに渡れるかどうかわからないような状態にあるんだと。そういう中から、トンネルができたり向こうの橋ができたりすりゃ、当然ここは交通緩和されるだろうと。トンネルができれば、水戸の梅香と同じように、30分も40分もかかって行かなきゃならないのが、わずか40秒か45秒で通過できるわけですよ。当然、太田市もそのトンネルができれば、こっちの駅前なんかを遠回りして回らなくても、真っすぐ通過していくと。当然、そうしたことから、里美の方、あるいは金砂郷関係は、日立に行くからでもない限りは、そちらのほうへ行ってしまう。

そういう計画のもとに、これは歩行者天国のような形にとって、現在の駅を中心とした、向かって、それに均衡のとれた都市型のものをつくろうと。そして、結局道路をうまく活用して、歩行者天国のようなものにしたたり、いろんなイベントをやったり、朝市、夕市なんかをやったり、そういうことによって、とにかく市高台の活性化へもつなげていこうというのが、当時の考えであったわけです。

そのころから、結局皆さん方のところは、もう開発対象地区になるんですよということが言われておったわけです。ですから、先ほど申し上げましたように、そういう対象になっている中で、ああ、なるほどなと、雨露しのぐぐらいで、店もあまり改良したり建てかえたりしないで、もう少し待ってようと。それで、雨露しのぐような程度で現在まで待っておったわけです。

ところが、あけてみましたら、ほんの電鉄の一部だけ、そして、こっちの反対側のほうは、道路未使用にして、電鉄の敷地へ道路をつくと。そして、駅は、線路の向こう側へ持って行って、しかも向こう側を玄関口にしてつくと。それで、結局、そういう話になってきたんですからたまらないですよ。何をふざけたことを言っているんだと。それで、そういうけんかになってしまったんですよ。これは、降ってわいたような話じゃないということを市長はおっしゃっていますが、これ、皆さんお聞きになって、そういうことになると思いますよ。

会場の中で、そういう隣近所のけんか騒ぎですから、先ほどの人も、おれはそんなことを言われたから格好悪くて、帰ってきて報告できなかったんだと、そういうのが現状なんですね。ですから、わかりませんよ。ですから、本当に一部の地権者でもって決められたと。私、ことしの4月の末になって、83歳の元老の富岡さんのおじいさんに、「生田目議員さんよ、あれからどうなったんだ。何だか去年の暮れごろから、向こうのほうの一部の人間とこっちのほうの一部の人間で、どこそこのお店はどうなんだ、どこそこの人はどこへ引っ越していくんだなどという話が出る。私らが行くというと、ぱっとやめてしまう。どうも不可解だから、行って調べてくれ」というので、私は4月の末に都市計画課長のところへ参りまして、話がそれから出てまいったわけでありませう。

ですから、先ほど申しました全員協議会だってそうなんですよ。まちづくりじゃないんですよ。施設計画という表題のパンフレットが全員協議会で出されているわけです。しかもその下に、そういうもめにもめた中で、先ほど申しました建設部長の名で、「おおむねまとまったので報告する」、こういうことが書かれたものが配付されたわけですよ。ですから、一般の議員はわかりませんよ。失礼ですが、そんなこと言ったんじゃ、おしかりを受けるかしらませんが、わからないところで決まりましたと、ああ、なるほど、市でやっていることだから、これはしょうがないのかなと、そうなのかなというだけであつたのかというふうにも感じますが、そういうわけで、何だこれは、いつこんなことがまとまったんだというようなことであります。

そういうことでありまして、とにかく、反対ではないんだと、これでは困るから見直してくれと、10何年も前から期待を込めていたんだというようなことが、本当の地元の地権者や商店主の考え方なんですね。ただ相手が市でありますから、なかなか自分の思うようなことも申し上げられないというのが、地域の方の考えではないかと思ひます。

いずれにしましても、このコンサルタントの契約にしましても、こういうふうに、私もには黙っていましたけれども、一部の人にはちゃんとこういうものがはっきりと示された。ですから、先ほどもありましたように、結局、ほかのこういうものにもこれは使用されているんだと。その使用されているものもみんないいですから、こういう領収書と契約、そういうものを提示してもらいたいということを私は申し上げておるわけでありませう。なければ、今でなくても結構ですから、ぜひそういうものをお願いしたいと思ひております。

いずれにしましても、そういうことで、各地区の方も、いろいろ聞いてみますと、これはもったいないんじゃないかと、先ほども立原議員からも出ましたけれども、もう少しでトンネル、そしてその橋ができる、あと1年か2年のうちじゃないかと。その結果を見てから、それからやったほうがいいんじゃないかと。16億円もの金を、前にも申し上げましたが、8年前に、JRは100円の利益を見るために300幾らかかるので、もう撤退だという事実が現にあつたわけでありませう。それを、何とか今日まで延長してやってきておるわけですが、乗客も、人口減とともにどんどん減ってきておるわけですよ。今度は国鉄じゃないんですよ。ご承知のように、民間企業なんですよ。その民間企業で……、どん

なに市長が立派にお金をかけておいて、いてもらうんだとおっしゃって、だからつくるんだとおっしゃっておりますが、これではいつ……，自分の資本を投下しているわけじゃないんですから，1企業ですから，もうお世話になりましたって帰られた後に……。

議長（高木将君） 発言者に申し上げます。要点を絞り込んで……。

25番（生田目久夫君） そういうことですから，とにかく，皆さん，この婦人団体，この407名という，17，18日両日の説明会の後に，わずか3日か4日のうちに400名以上の方の反対陳情が出たわけですから，署名捺印をされたものが。そういうことを十分に，前にも申し上げましたが市長もご理解をいただいて，見直しをしてくれということをおっしゃっているんですから，その辺をもう一度ご理解をいただいて，そして，新たに，現在の考え方よりもっといい，すばらしいものをつくっていただければ，地元地権者の皆さんも何とか安堵するのではないかと，こういうふうに私も期待をしているわけであります。

時間も来ましたし，まだいろいろありますが，この辺で私の質問を終わりにいたしたいと思えます。どうも皆さん，大変ご協力ありがとうございました。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 再度のご質問にお答えを申し上げます。

まず最初に，役員の選出について，地元の地権者の皆さんからの役員選出に当たりましては，先ほど申し上げましたように，これまでの経緯の説明，それから地元との相談の中で，その役員を選出をして，協議会を立ち上げてやっていこうと，こういう合意に達して，地元の地権者の皆さんに関しては，山下町会のご協力をいただいて，役員の皆さんをご選出をいただいたわけであります。

それから，木崎トンネルができた後でもいいじゃないかというお話がございましたが，ただいま現在，太田駅前を通っております通行量は，1日当たり1万6,500台前後の車が通っております，この木崎のトンネル，さらにはこの後になりますが，293のバイパス等が開通をした時点で，太田駅前の交通量は，今の半分の8,500台前後になるというふうに見込んでの計画でございます。もちろん，通過交通量が減ったにしても，死傷病の事故の発生率は変わらないわけでありまして，それにはどうしても，変則交差点の改良が必要だというふうに考えているところでございます。

それから，平成12年当時の開発対象地域が，今，絞り込んでおるといというのは事実でございます。これは，ただいまの財政状況等々を考えまして，交通安全対策，そして駅前広場の整備等を最小限の費用で行うということに思いをいたしまして，補償費等が多額に発生しないことが費用削減の1つの方策でもあります。したがって，そういう考えから，開発対象地域を絞り込んだということを進めていきたいと思っております。

最後に，この太田駅前の整備，交通安全の対策等に関しましては，先ほど来申し上げましたように，財源の手当てのついた時期に実行することが必要であるというふうに思いま

すし、ただいま現在、行政執行、あるいは議会の議員の皆様におかれましても、あのままの形で、後世にそのまま引き継ぐことで、本当に我々の責任が果たせるのかどうか、後世に対して責任を果たしていきたい、そのような思いから、早急なる整備を進めてまいりたいというふうに考えます。

議長（高木将君） 建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） コンサルタントとの契約関係の書類につきましては、提出させていただきますと思います。

以上でございます。